

2022年度入試

# 入学試験問題集

【東京成徳大学 大学院心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程】



東京成徳大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻

# 目 次

修士課程 1 期・学内推薦入学試験 英語	1
修士課程 1 期・学内推薦入学試験 小論文	3
修士課程 1 期・学内推薦入学試験 専門科目	4
修士課程 2 期入学試験 英語	8
修士課程 2 期入学試験 小論文	10
修士課程 2 期入学試験 専門科目	11
出題意図・解答例	14

# ●修士課程 1 期・学内推薦入学試験

## 【英語】（試験時間：60 分）

問題 1 以下の英文を読んで、設問に解答して下さい。

At its core, ① CBT (Cognitive Behavioral Therapy) focuses on how we attend, interpret, reason, reflect and make sense of inner and outer events. It is a journey into personal meaning-making at the edge of mind and objective experience. It emerged from ego-analytic psychotherapy in the 1950s and 1960s, rooted itself in academic psychology, and began the slow process of scientific investigation during the 1970s (Padesky, 2004).

One way to clarify CBT is to emphasize its focus on conscious mental processes. ② While it acknowledges that unconscious processing clearly exists, it proposes that the most effective method of engaging with a client and facilitating change is to help them become aware of their conscious experience of meaning-making. Beck (1976) contrasts cognitive therapy with psychoanalysis, which emphasizes the therapist's interpretations of the client's unconscious motivations; with early behaviour therapy, which takes the measurement of observable behaviour as the only source of valid data, and with neuropsychiatry, which locates the source of the client's problems within a disordered neurochemical process. According to Beck (1976), all three approaches ignore the validity of the client's own reports. CBT therapists have to listen very carefully to what clients are saying, because this is the information they use and share with the client to try to understand their lives better, and to work with them on improving their lives, in line with the clients' own goals.

Yet, contemporary CBT is not quite the same as Beck's early cognitive therapy. CBT is often perceived as a single, knowable entity, but this is not the case. ③ It evolves through the reciprocal interplay of theory, research and clinical observation (Salkovskis, 2002).

It is often claimed that the only scientific support for CBT is from randomised controlled trials. Again, this is not the case. The scientific support for CBT derives from a convergent range of diverse methodologies, including case studies (eg. Visser & Bouman, 1992), case series (eg. Watkins et al, 2007), experimental manipulations (eg. Browning, Holmes & Harmer, 2010), statistical modeling (eg. Stahl, Rimes & Chalder, 2014), diaries (eg. Clark et al, 1999), qualitative interviews with service users (Knowles et al, 2014), practice-based evaluations (eg. Gillespie et al, 2002), and, last but not least, randomised controlled trials, including their systematic reviews and meta-analyses (eg. Tolin, 2010).

出典：Mansell, W. (2018) . What is CBT really and how can we enhance the impact of effective psychotherapies such as CBT? In D. Loewenthal & G. Proctor (Eds.) Why not CBT? : Against and For CBT Revisited. Herefordshire, UK: PCCS Books. p. 343-361. 一部  
改変の上で使用

(問 1-1) 英文中の下線部をそれぞれ日本語に訳して下さい。

(問 1-2) 以下の各文を読み、上記英文中で説明されている内容と合致するものは○、合致しないものは×として、各文の右にある解答欄に記入してください。

- Beck の初期認知療法と現代の CBT は、全く同じとは言えない。
- CBT は、1970 年代に、認知科学から派生したものである。
- Beck(1976) は、認知療法を他の 5 種類のセラピーと比較検討した。
- 様々な方法で得られたデータが、CBT の科学的根拠として活用される。
- Beck(1976) は、クライアントの言語報告は信用できないと主張した。

**問題2** 次の英文は「ゲーム障害 (GD : gaming disorder)」に関するレビュー論文の一部です。この英文を読んで、問1～問5に答えてください。

Following a provisional status for 'internet gaming disorder' (IGD) in the DSM-5 (American Psychiatric Association, 2013), gaming disorder was officially adopted at the World Health Assembly in May 2019 as a diagnosis in the eleventh edition of the International Classification of Diseases (ICD-11; WHO, 2019). GD is characterized by persistent gaming behavior, impaired control over gaming, and functional impairment due to gaming for a period of at least 12 months in most instances (Saunders et al., 2017). (1) Individuals with GD play games to the exclusion of other activities, resulting in missed life opportunities and interference with normal routine and basic self-care (i.e., sleep, eating, personal hygiene) ; real-world social interaction (i.e., meeting friends, visiting family) ; and important responsibilities (i.e., school, work, care of children) (Allison, Von Wahide, Shockley, & Gabbard, 2006; Beranuy, Carbonell, & Griffiths, 2013; Griffiths, 2010). Individuals with GD often feel unable to regulate or cease their gaming behavior, and experience intense negative mood states (e.g., irritability, sadness, and boredom) when unable to play (Dong, Wang, Du, & Potenza, 2017; Kaptsis, King, Delfabbro, & Gradisar, 2016). (2) Personal distress may also relate to a fear of missing out on the online game world, where the user feels a strong sense of personal identity and self-efficacy (King & Delfabbro, 2014; Lemenager et al., 2013; Marino & Spada, 2017; Wegmann, Oberst, Stodt, & Brand, 2017). With the official inclusion of GD as a diagnostic category in the ICD-11, it was considered timely to evaluate the extent to which current instruments were consistent with current defining elements of GD.

Previous reviews and related articles on GD instrumentation have reported various inconsistencies and psychometric weaknesses (Griffiths, King, & Demetrovics, 2014; King, Delfabbro, Zwaans, & Kaptsis, 2013; King, Haagsma, Delfabbro, Gradisar, & Griffiths, 2013; Lortie & Guitton, 2013; Petry et al., 2014; Starcevic, 2013). (3) The most recent major systematic review examined 18 assessment tools employed in 63 studies and reported problems including inconsistent cutoff scores and symptom coverage, and inadequate data on predictive validity and inter-rater reliability (King, Haagsma, et al., 2013). (4) Uncertainty has also arisen due to the common research practice of adapting or developing new tools rather than using previous ones. Prior to the provisional DSM-5 criteria for GD, researchers would often adapt the criteria of other disorders (e.g., pathological gambling in the DSMIV-TR) (Fisher, 1994; Griffiths & Hunt, 1998). Over time, this practice evolved into adapting these criteria in new ways (e.g., word edits or substitutions, new response categories) and combining other previous items, sometimes sourced from three or more different scales, with new items to create composite measures (e.g., Groves, Gentile, Tapscott, & Lynch, 2015; Jap, Tiatri, Jaya, & Suteja, 2013; Peng & Liu, 2010).

出典 : Daniel L. King et al. (2020). Screening and assessment tools for gaming disorder: A comprehensive systematic review. *Clinical Psychology Review* 77, open access <https://doi.org/10.1016/j.cpr.2020.101831>

**【問題 2-1】** 下線部(1)の結果として、ゲーム障害の人たちはどのようになると考えられていますか？ 本文の内容に則して説明してください。

**【問題 2-2】** 下線部(2)を和訳してください。

**【問題 2-3】** 下線部(3)で示されたことをまとめてください。

**【問題 2-4】** 下線部(4)の uncertainty とは、どういうことですか？ 簡潔に説明して下さい。

**【問題 2-5】** 次の①～⑤の文章のうち、本文の内容に合致してるものは○、合致していないものには×をつけてください。

- ゲーム障害 (GD) は、ICD-11 の診断として採用が正式に承認されたわけではない。
- DSM-5 では、インターネットゲーム障害 (IGD) という診断が採用されている。
- ゲーム障害は、ゲーム行為の持続、ゲームを制御することの困難、その他の機能障害が 12 か月以上続くことで診断される。
- 現在のゲーム障害のアセスメントは、妥当性よりも信頼性に問題があると言える。
- ゲーム障害のある人は、ゲームで達成感を得られないと、苛立ちや悲しみなどの否定的な感情を感じることが多い。

# ●修士課程 1 期・学内推薦入学試験

【小論文】（試験時間：60 分）

**問題** 警察庁によると虐待事件の検挙数が 2020 年は、2133 件と過去最高となった。年々増加する虐待は教育現場でも重大な関心事となっている。そこで、スクールカウンセラーが行う虐待発見前後の対応について記載しなさい。その際、虐待の種類や被虐待児の特徴についても言及すること。

# ●修士課程 1 期・学内推薦入学試験

【専門科目】（試験時間：90 分）

問題 1 以下の 1～10 に当てはまる適切な専門用語を解答欄に記入してください。

- ・ヴントは、心理学の研究対象は意識であると考え、観察者自らが自分自身の意識過程を観察する方法として（ ① ）を提唱した。
- ・さまざまな経験に基づいて形成された、抽象的で一般的な知識のまとまりは（ ② ）と呼ばれ、新規に入力される情報の選択的認知や解釈のための枠組みとなる。
- ・問題解決事態において、試行錯誤的に解決手段を探していくのではなく、諸情報の統合によって一気に解決の見通しを立てることを（ ③ ）という。
- ・オペラント条件付けにおける強化スケジュールのうち、（ ④ ）とは、要求される反応数が強化ごとに不規則に変動するものであり、このスケジュール下では強化後の反応休止がほとんど見られず、高頻度の連続的反応が出現する。
- ・学習が効果を持つためには、学習者の心身が一定の発達を遂げていることが必要であるが、このような学習成立のための準備性のことを（ ⑤ ）という。
- ・メーヨーを中心に、1927 年から 1932 年にかけてシカゴの工場で作業能率を向上させる条件について検討し、休憩や労働時間などの物理的環境条件よりも職場における人間関係のほうが重要な要因であることを明らかにした研究は、（ ⑥ ）と呼ばれる。
- ・ラザラスとフォルクマンは、環境からの要求に対する（ ⑦ ）やコーピングという個人的変数を導入し、環境と個人との相互作用を強調する心理的ストレスモデルを提唱した。
- ・帰属理論において、後で自分に都合のよい帰属が行えるように、課題を遂行する前に自分に不利な条件があることを主張したり、不利な条件を自ら作り出したりすることを（ ⑧ ）という。
- ・それが顔であるということはわかるが、よく知っている人の顔を見てもそれが誰であるのかわからず、新しい顔を学習することもできないという脳機能障害のことを（ ⑨ ）と呼ぶ。
- ・アイヴィによって開発された（ ⑩ ）とは、諸派のカウンセリングの技法を系統的に配列した階層表を基に、一度に一つずつ単一の技法を習得させる、初心者のためのカウンセリング訓練プログラムである。

**問題 2** 次の用語の要点について、日本語で簡潔に説明してください。

- (1) サイコロジカル・ファーストエイド (PFA : Psychological First Aid)
- (2) 適性処遇交互作用 (aptitude treatment interaction)
- (3) ためこみ症 (hoarding disorder)
- (4) 母親の原初的没頭 (primary maternal preoccupation)
- (5) カウンターバランス (counterbalancing)

**問題 3** 以下の研究レポートを読み、設問に答えてください。

**【目的】**

大学構内に設置してある点字ブロックに近接して置かれた不適切駐輪に対して、注意を促すポスターを掲示し、その効果を検討することを目的とした。

**【方法】**

測定対象：構内で点字ブロック上、または、その付近に不適切駐輪をしていた自転車、バイクを対象とした。なお、不適切駐輪とは、測定場所に駐輪してある自転車・バイクのうち、“車両、もしくはその一部（ハンドルやタイヤなど）が、一連の点字ブロックの左右両縁（あくまで利用者が歩行する際の左右）から外側に向かって幅 50cm の範囲、もしくはその垂直上方にあるもの（点字ブロックおよびその左右 50cm 幅を底面とした直方体を想定した場合、車両の一部がその直方体と重なってしまうもの）”と定義した。

測定場所：構内の 3 エリア 8 地点（図書館 2 地点、講義棟 4 地点、研究棟 2 地点）を測定場所とした。

測定日時：1998 年 10 月 27 日（火）から 1999 年 3 月 16 日（火）の期間に測定した。週 2 日（火曜と金曜）、1 日につき、午前 1 回、午後 1 回の計 2 回（午前 11:00 および午後 3:30）を測定する日時とした。

観察方法および信頼性：2 名の観察者は不適切駐輪測定用メジャー（50cm のメモリが付されたビニール製紐）を使用し、観察を行った。観察者間の [ a ] は、全データの約 80%（60 回測定中の 49 回）について、2 名の観察者の独立した記録結果から算出され、93.1% の [ a ] を得た。

実験デザイン：場面間多層ベースライン・デザインを用いた。エリア 1（図書館）とエリア 2（講義棟）についてはベースライン、介入、プローブ（\*）を、エリア 3（研究棟）にはベースラインの測定のみを行った。

（\*・出題者注釈） プローブとは、介入を行わない条件での観察を指す。介入を行わないフォローアップ期に標的行動が般化しているかを検証する際に用いられる。

ベースライン 3 エリア 8 地点（図書館 2 地点、講義棟 4 地点、研究棟 2 地点）において、不適切駐輪台数の測定を行った。エリア 1（図書館）では 15 日間、エリア 2（講義棟）では 18 日間、エリア 3（研究棟）では全期間（30 日間）をベースラインとして測定した。

（次ページに続く）

介入 エリア1（図書館）では11日間、エリア2では6日間に渡って介入を行った。介入では、不適切駐輪の定義とその防止を呼びかける内容のポスター（図3・右図）をエリア1（図書館）とエリア2（講義棟）に掲示した。エリア1（図書館）では北側入口ドアおよび南側入口の2カ所に、エリア2（講義棟）では南側入口ドアおよび西側入口ドア2カ所に掲示した。エリア3（研究棟）には掲示しなかった。

プローブ ベースラインと同じ手続きで実施した。ただし、エリア3（研究棟）については、ベースラインのみの測定にとどめており、プローブという形では測定しなかった。

【結果】 図4（下図）に大学構内における点字ブロック付近の不適切駐輪台数を示した（不適切駐輪の総数は723台）。各プロットは、エリアごとの1日の累計台数を示している。

出典：

松岡勝彦・佐藤晋治・武藤崇・馬場傑（2000）.「視覚障害者に対する環境的障壁の低減：駐輪問題への行動コミュニティ心理学的アプローチ」, 行動分析学研究 15 (1), 26-33.



図3 介入期に掲示したポスター ポスターは、A3判（縦420mm×横297mm）の大きさで、全体をラミネート加工した。青地に赤色でメッセージを付し、上部には点字ブロックのシンボルマークを配し、下部には点字ブロック付近の写真上に駐輪禁止の範囲を示した。

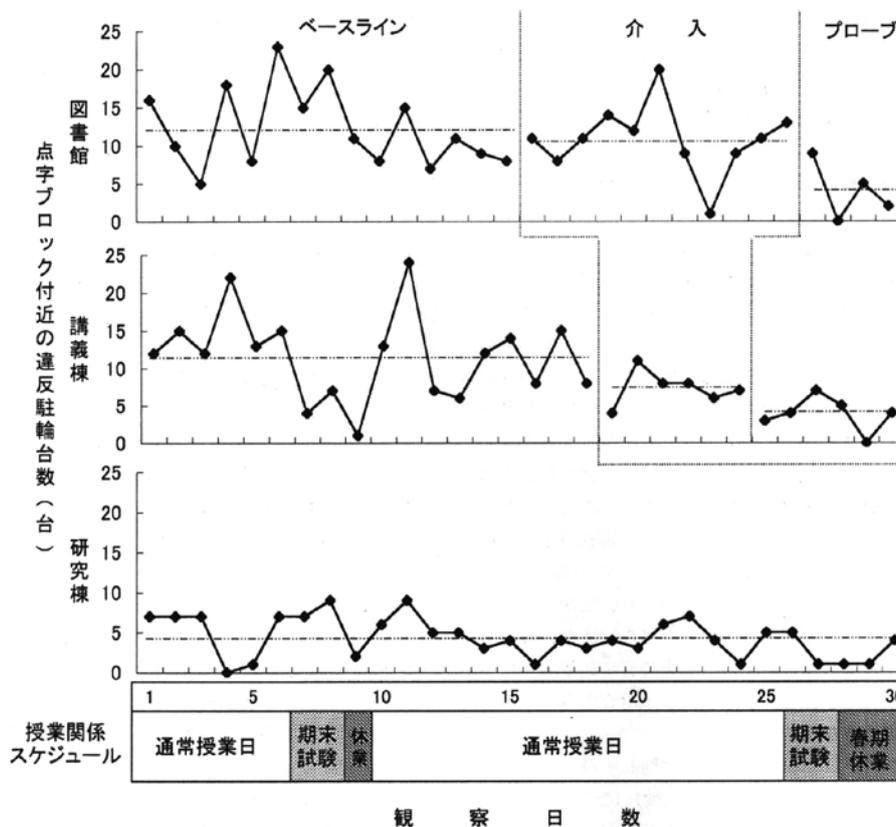


図4 点字ブロック付近における違反駐輪台数

(問3-1) 文中の空欄 [ a ] に最も適した語句を記入してください。

(問3-2) 本研究レポートの従属変数を答えてください。

(問3-3) 本研究レポートで、研究実施者の松岡他(2000)は、「ポスターを掲示した2か所(図書館と講義棟)のうち、講義棟については効果が見られたが、図書館については、さほど効果が見られなかった。」と述べている。この著述をふまえ、以下の間に答えてください。

① 図4から、この著述の根拠を示してください。

② この著述を仮説として、統計学的検討をする場合、どのような統計学的検討が考えられるか、そのデザインとして、不適切なものをア～エより、1つ選んでください。そして、なぜ、その選択肢が不適切だと考えたのか説明してください。

ア) ベースライン・介入の時期、および図書館と講義棟のエリア、不適切駐輪の台数について、 $\chi^2$ 乗検定を用いて、講義棟が介入期に不適切駐輪が割合として、有意に、ベースラインや図書館より少ないことを確認する。

イ) 図書館と講義棟におけるベースライン期の不適切駐輪の平均台数と介入期の不適切駐輪の平均台数について、対応のあるt検定をそれぞれ行う。同時に、ベースライン期の図書館と講義棟の不適切駐輪の平均台数、介入期も同様の比較を、t検定を実施することで、講義棟の介入期が、有意に平均台数が少ないことを確認する。

ウ) 時期とエリアを被験者内計画と被験者間計画で検討する混合計画でデザインする。繰り返しのある二元配置分散分析を用いて、講義棟での介入期の不適切駐輪の台数が有意に少ないことを確認する。

エ) 図書館、講義棟それぞれにおいて、ベースラインと介入での不適切駐輪台数について、ウィルコクソンの順位和検定を行う。講義棟のみにおいて、介入の順位平均がベースラインの順位平均よりも有意に小さいことを確認する。

# ●修士課程 2 期

## 【英語】（試験時間：60 分）

問題 1 以下の英文を読んで、設問に解答して下さい。

Sometimes we think we see a correlation that doesn't really exist. For example, many people believe that consuming sugar makes children hyperactive. However, extensive research found little effect of sugar on activity levels, and some studies found that sugar calms behavior. Why, then, do many people believe that sugar makes children hyperactive? <sup>(1)</sup> Researchers watched two sets of mothers with their 5- to 7-year-old sons after telling one group that they had given the sons sugar and the other that they had given the sons a placebo, a pill with no known pharmacological effects. In fact, they had given both a placebo. The mothers who thought their sons had been given sugar rated their sons hyperactive during the observation period, whereas the other mothers did not. That is, people see what they expect to see.

<sup>(2)</sup> When people expect to see a connection between two events (e.g., sugar and activity levels), they remember the cases that support the connection and disregard the exceptions, thus perceiving an illusory correlation, an apparent relationship based on casual observations of unrelated or weakly related events. Many stereotypes about groups of people are illusory correlations.

As another example, consider the common belief that a full moon affects human behavior. For hundreds of years, many people have believed that crime and various kinds of mental disturbance are more common under a full moon than at other times. The term lunacy (from the Latin word *luna*, meaning "moon") originally meant mental illness caused by the full moon. Some police officers claim that they receive more calls on nights with a full moon, and some hospital workers say they have more emergency cases on such nights. However, careful reviews of the data have found no relationship between the moon's phases and either crime or mental illness. Why, then, does the belief persist? People remember events that fit the belief and disregard those that do not.

"Correlation does not mean causation." You will hear that statement again and again in psychology and other fields. <sup>(3)</sup> A correlation indicates how strongly two variables are related to each other. It does not tell us why they are related. If two variables--let's call them A and B--are positively correlated, it could be that A causes B, B causes A, or some third variable, C, causes both of them.

For example, how much sunscreen people use is positively correlated with their chance of getting skin cancer. Does that mean that sunscreen causes cancer? It is more likely that people who are at risk of skin cancer, because they spend much time in the sun, are the ones who use more sunscreen.

<sup>(4)</sup> There is also a positive correlation between how often parents spank their children and how often the children misbehave. Does this correlation indicate that spankings lead to misbehavior? Or does misbehavior lead to spankings? Yet another possibility is that the parents had genes promoting aggressive behavior that led them to spank, and the children inherited those genes, which led to misbehaviors. Because all these explanations are possible, we cannot draw a conclusion about causation.

"Then what good is a correlation?" you might ask. First, correlations help us make predictions. Second, correlational studies pave the way for later experimentation that might lead to a conclusion. For example, if we could persuade half the parents to stop spanking, we might see whether their children's behavior improves.

出典：Kalat, J. W. (2017). Introduction to Psychology, 11th edition, 40-41, Cengage Learning.

【問題 1-1】 下線部(1)の研究者たちが行った研究の手続きと、その結果を日本語で説明してください。

【問題 1-2】 下線部(2)を日本語に訳してください。

【問題 1-3】 下線部(3)を日本語に訳してください。

【問題 1-4】 下線部(4)を日本語に訳してください。

**問題2** 次の文章を読み、設問に解答して下さい。

著作権使用許可が下りなかったため、問題文を掲載しておりません。

なお、問題文と設問は「How to help children and teens manage their stress (October 24,2019).」の冒頭から Chapter “Sources of stress in adolescents and teens”の末尾までを掲載しました（問題文：約 500 語程度）。

詳細は、<https://www.apa.org/topics/child-development/stress> よりご参照  
ください。

# ●修士課程 2 期

## 【小論文】（試験時間：60 分）

**問題** カウンセリングにおいて、クライアントに対するカウンセラーの「受容」「共感」が重要な基本的態度であると言われる。それぞれがどのような現象を意味しているのか、「受容」「共感」された人はどのような体験をするのか、その体験がその人にどのような変化をもたらすのか、説明しなさい。その際に、自分自身が「受容」「共感」された体験を例に用いて、わかりやすく述べなさい。

# ●修士課程 2 期

## 【専門科目】（試験時間：90 分）

問題 1 以下の 1～10 に当てはまる適切な専門用語を解答欄に記入してください。

- ・研究協力者に対しては前もって研究の目的を説明することが原則であるが、あえて虚偽の目的を示して行うことを（ 1 ）という。この場合は事後に必ずデブリーフィングを行わなければならない。
- ・非直言的記憶の一種であって、あらかじめ刺激が呈示されるとその刺激に関連した刺激の処理が促進されることを（ 2 ）という。
- ・自分なりのルールや完全さにとらわれて柔軟性や効率性が犠牲となることを特徴とするパーソナリティの障害は DSM-5 では（ 3 ）と分類される。
- ・体性感覚は脊髄の感覚神経から間脳の（ 4 ）で中継されて頭頂葉の一次感覚野に投射される。
- ・ピアジェ（Piaget, J.）による（ 5 ）では、物に直接働きかけることで外界を認識し、シエマを形成するとされている。
- ・虐待や犯罪被害にあった子どもに対して行う（ 6 ）は、正確な情報を得るために、誘導したりイメージさせることを避ける面接技法である。
- ・活動記録表を用い、達成感や快感情が増すような行動を増やしていく認知行動療法の技法を（ 7 ）という。
- ・対人支援の従事者に生じることのある情緒的消耗感と脱人格化、達成感の減退を特徴とする状態はマスラック（Maslach, C.）とジャクソン（Jackson, S.）によって（ 8 ）と呼ばれている。
- ・行動の結果を自分と外部のどちらの統制に帰属させるかには個人差があり、ロッター（Rotter, J.B.）はこれを（ 9 ）と呼んだ。
- ・身体疾患の際にしばしば出現する、意識障害に幻覚・錯覚や不安・興奮が伴う状態を（ 10 ）という。

問題 2 次の用語の要点について、日本語で簡潔に説明してください。

- (1) 緩和ケア
- (2) PF スタディ
- (3) ハロー効果
- (4) 3 段階の心理教育的援助サービス
- (5) 選好注視法

問題3 以下の研究レポートをよみ、設問に解答してください。なお、研究内容は全て本試験用に作成された架空のもので

【目的】

大学生の個人特性と環境保全行動の関連について検討する。

【方法】

▶調査協力者

大学生 250 名（男性 120 名，女性 130 名）。

▶手続き

① Web フォームの URL 及び QR コードが記載された文書を配布する無記名式アンケート調査を実施した（調査協力者は URL または QR コードにアクセスして回答を行う）。

▶調査内容

<個人特性を測定する尺度>

- ・共感性尺度：あたかも相手の身になったように他者の気持ちや考えに気づき，思いやりをもつ傾向を測定する。得点が高いほど共感性が高い。
- ・自己愛傾向尺度：自分自身に対する肯定的感覚をもち，その感覚を得ることに対する強い欲求をもつ傾向を測定する。得点が高いほど自己愛傾向が強い。
- ・愛他傾向尺度：他者の幸福や利益を願い，思いやりをもって関わろうとする傾向を測定する。得点が高いほど愛他傾向が強い。
- ・責任感尺度：責任を重んじ，それを果たそうとする気持ちを測定する。得点が高いほど責任感が強い。

<環境保全行動を測定する尺度>

- ・環境保全行動尺度：地球全体または周囲を取り巻く自然環境を守るための意識や行動を測定する。得点が高いほど環境保全行動が高い。

【結果と考察】

大学生の個人特性と環境保全行動の関連を検討するため，共感性尺度，自己愛傾向尺度，愛他傾向尺度，責任感尺度と環境保全行動尺度間の単相関係数を算出した（Table 1）。その結果，いずれも中程度以上の有意な相関関係を示していた（ $r = -.56 \sim .92$  全て  $p < .01$ ）。

環境保全行動へ影響を及ぼす大学生の個人特性について検討するため，[ a ] を目的変数，[ b ] を説明変数とする重回帰分析を行った（Table2）。その結果，まず [ c ] ( $R^2$ ) をみると 0.785 であり，1%水準で有意であった。次に [ d ] ( $\beta$ ) をみると，②愛他傾向及び責任感が環境保全行動へ有意な正の影響をあたえており（愛他傾向  $\beta = .78$ ，責任感  $\beta = .40$ ，いずれも  $p < .01$ ），共感性が環境保全行動へ有意な負の影響をあたえていた（ $\beta = -.19$ ， $p < .05$ ）。

Table 1 大学生の個人特性と環境保全行動の相関分析結果

	共感性	自己愛傾向	愛他傾向	責任感	環境保全行動
共感性	—				
自己愛傾向	-.84 **	—			
愛他傾向	.92 **	-.88 **	—		
責任感	.60 **	-.56 **	.61 **	—	
環境保全行動	.75 **	-.73 **	.83 **	.74 **	—

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

Table2 環境保全行動に対する重回帰分析の結果

	環境保全行動	
	$\beta$	VIF
共感性	-.19 *	6.567
自己愛傾向	.02	4.433
愛他傾向	.78 **	12.454
責任感	.40 **	1.625
$R^2$	.785 **	

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

Table3 環境保全行動に対する重回帰分析の結果

	環境保全行動	
	$\beta$	VIF
共感性	.27 **	1.617
自己愛傾向	-.25 **	1.379
責任感	.44 **	1.603
$R^2$	.713 **	

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

(問 3-1) 下線部①の調査方法について、紙面によるアンケート調査と比較した利点と欠点を 1 つずつ記入してください。※新型コロナウイルス感染症対策としての利点は除くこと。

(問 3-2) 結果文中の空欄 [a]～[d] に最も適した語句を全て記入してください。

(問 3-3) Table1 及び Table2 のデータから、重回帰分析結果には [ e ] の問題があった。[ e ] に最も適した語句を 1 つ記入し、その語句について簡単に説明してください。

(問 3-4) 問 3-3 の問題点を解消するために愛他傾向尺度を除き、再度重回帰分析を実施した結果、Table 3 の通りとなった。Table 3 から読み取れる結果に基づき、下線部②を書き直し、さらに考察を簡単に記述してください。

# ●出題意図・解答例

## ■ 1 期

### 【英語】

#### 出題意図

英語で書かれた心理学の論文や文献を読む力を調べる問題である。特に、認知行動療法とゲーム障害について、その基本的な知識を用いながら理解・翻訳することを求めた。

#### 解答及び解答例

##### 問題 1

(問 1-1)

- ① CBT（認知行動療法）は、私たちがどのように内的なそして外的な事象を、注意し、推論し、反省し意味作りをするかに、着目する。
- ② それ（CBT）は無意識的なプロセスが存在することは明らかとする一方、クライアントに関わり変化を促進する最も効果的な方法は意味づくりの意識的経験を自覚することだと主張する
- ③ それ（CBT）は、理論、研究、臨床的な観察の互恵的な相互作用を通して発展してきた（Salkovskis, 2002）。

(問 1-2)

a. ○ b. × c. × d. ○ e. ×

##### 問題 2

###### 【問題 2-1】

人生の機会を逃し、睡眠、食事、衛生管理といった日常の基本的なセルフケア、友人や家族との関わりといった現実世界の社会的相互作用、そして、学校や仕事、子どもの世話といった重要な責任を担うことに支障をきたす。

###### 【問題 2-2】

ゲーム障害の人々が感じる個人的な辛さは、ユーザーが個人のアイデンティティと自己効力感を強く感じるオンラインゲームの世界を見逃してしまうことへの恐れにも関係している可能性があります。

###### 【問題 2-3】

基準値（カットオフ値）や症状の範囲に一貫性がないことが問題として示された。また、評定者間の一貫性が不十分で、予測的妥当性にも乏しい。

###### 【問題 2-4】

ゲーム障害をアセスメントするのに、以前のツールを使用するのではなく、新しいツールを適応または開発しなければならないために生じる不確実性

###### 【問題 2-5】

a	b	c	d	e
×	○	○	×	×

## ■ 1 期

### 【小論文】

#### 出題意図

近年の臨床心理学において重要な概念・トピックに関して、十分な知識及び論述する能力があるかを問う問題である。

#### 【採点基準】

回答 形式的評価…3/4 以上の字数がある。

内容的評価…設問内容を正しく的確に理解し、テーマに沿った内容である。

表現が適切、かつ客観的に述べられている。

論旨が通っている。

自分の主張がはっきりと述べられ説得力がある。

### 【専門科目】

#### 出題意図

1. 広範な領域から、重要かつ基本的な用語の知識があるかを問う問題である。
2. パーソナリティ、心理尺度、発達、臨床心理学など広い領域から、重要かつ基本的な用語の知識および論述する能力があるかを問う問題である。
3. 研究に関する重要で基本的な知識・論述する能力があるかを問う問題である。

#### 解答及び解答例

##### 問題 1

- ① 内観（法）
- ② スキーマ
- ③ 洞察
- ④ 変動比率（強化）スケジュール or 変（比）率強化スケジュール
- ⑤ レディネス
- ⑥ ホーソン研究
- ⑦ 認知的評価
- ⑧ セルフ・ハンディキャッピング
- ⑨ 相貌失認
- ⑩ マイクロカウンセリング

##### 問題 2

- (1) サイコロジカル・ファーストエイド（PFA：Psychological First Aid）

心理学的応急措置。深刻な危機的出来事（災害・紛争・犯罪など）の当事者に対して、直後に行う心理社会的支援（のガイドライン）。被災による初期反応の苦痛を軽減すること、当事者のニーズを把握し、自然な回復が促されるよう支援することを目的とする。

- (2) 適性処遇交互作用（aptitude treatment interaction）

クロンバック（Cronbach,L.J.）が提唱。（学習者の適性と指導法（処遇）の組合せによって学習効果が異なるように）さまざまな適性の人々が環境から異なる処遇を与えられたとき、その処遇による結果が適性または処遇の一方だけからは説明されず、両者の組み合わせによる独特の効果を示すこと。

- (3) ためこみ症（hoarding disorder）

DSM-5では強迫症および関連症群に分類される。所有物を意図的に保有し、手放すことへの苦痛と困難が持続している。過剰な所有物により生活空間が取り散らかり、空間の使用目的が大きく損なわれ、著しい苦痛や社会的・職業的支障が生じる。

- (4) 母親の原初的没頭（primary maternal preoccupation）

ウィニコット（Winnicott,D.W.）の対象関係論における概念。母親が産前から産後の一定期間にかけて乳児に強く同一化し、子どもの泣き声や身振りなどの非言語的な行動を敏感に読み取り世話に没頭する状態。乳児のニーズを満たし、健やかな心身発達に必要な環境を作り出すことにつながる。

- (5) カウンターバランス（counterbalancing）

実験計画法に基づく研究などで、実験に無関係な変数の効果を除去するために、独立変数の呈示順序等のバランスをとる統制法。例えばすべての参加者に2つの条件 A、B を実施する際、参加者の半分は条件 A を、もう半分の参加者は条件 B を先に行い順序の効果を相殺する。

##### 問題 3

(問 3-1) 【 一致率 】

(問 3-2) 【 ベースライン 】

(問 3-3)

- ① 図 4 を参照すると、図書館のベースライン期の不適切駐輪の 1 日の平均台数は約 12 台であり、介入期の不適切駐輪の 1 日の平均台数は、約 11 台、プロープ期は、約 4 台である。一方、講義棟は、ベースライン期は約 12 台であるが、介入期は、約 7 台であり、プロープ期は、約 4 台であった。

プロープ期は図書館、講義棟共に約 4 台となっている。測定日時から推定すると春休みであり、また、雨天などの剰余変数が影響していることが考えられる。

ベースラインから介入の差は、図書館で 1 台、講義棟で 5 台となっていることから、介入の効果は講義棟に見られ、図書館ではさほど見られなかったと記述したと考える。

- ② 【 イ 】

(説明) データ数が少なく、外れ値も見られる。正規分布も確認できない。よって、正規分布に従うことを仮定した t 検定を用いるのは適切でない。また、仮に、参考値として、平均の比較をする場合も、繰り返し t 検定を用いることは、偽陽性を導きやすいので、避けることが望ましい。

上記、選択肢と根拠の論述のセットは、あくまで模範例であり、他の選択肢においても不適切な根拠に論理性が見られる場合、得点を与える。

## ■ 2 期

### 【英語】

#### 出題意図

英語で書かれた心理学の論文や文献を読む力を調べる問題である。特に、統計に関する知識や若者の心理的健康について、その基本的な知識を用いながら理解・翻訳することを求めた。

#### 解答及び解答例

##### 問題 1

###### 【問題 1-1】

5～7歳の男の子を持つ母親を2群に分けて、片方の群の母親には子どもたちに糖分を与えたと告げ、他方の群には偽薬、つまり薬理的な効果は何もない薬を与えたと告げた。実際には両方の群の子どもにも偽薬を与えた。自分の子どもが糖分を与えられたと思ひこんだ母親は、観察期間中に子どもを過活動であると評価し、一方、自分の子どもが偽薬を与えられたと思ひこんだ母親は、そのようには評価しなかった。

###### 【問題 1-2】

人は2つの事象間に関連があると期待すると（例えば糖分と活動レベル）、その関連を支持する事例を思い出し、例外を無視する。こうして錯覚的な相関、つまり関係のない事象や関係の弱い事象をなにげない観察にもとづいて、明らかな関係としてとらえることが生じるのである。

###### 【問題 1-3】

相関は2つの変数がお互いにどの程度関係しているかを示す。2つの変数がなぜ関係しているのかを教えてくれない。もし2つの変数をAとBと呼ぶことにして、それらが正の相関を示すなら、AがBを引き起こす、BがAを引き起こす、あるいは第3の変数CがAとBの両方を引き起こすことがありうる。

###### 【問題 1-4】

どのくらい頻繁に親が自分の子どもをたたかると、どのくらい頻繁にその子どもが悪さをする（無作法にふるまう）かについても、正の相関がみられる。この相関はたたかことが悪さ（無作法）に導くことを示すのだろうか。あるいは、悪さがたたかことを導くのだろうか。さらにもう1つの可能性として、親が攻撃行動を促進する遺伝子を持っていたのでたたかことの原因となり、子どもはその遺伝子を受け継ぎ、それが悪さにつながったのかもしれない。

#### 問題 2 の解答例

##### 【問題 2-1】

- ① 長期的なストレスを放置すると、多くの身体的、精神的な健康の問題を引き起こす可能性がある。長期のストレスは、高血圧や免疫力を低下させ、肥満や心臓病のような病気の原因となることがある。
- ② 若者のストレスは、必ずしも大人のストレスのように見えるとは限らない。しかし、大人のように子どもや十代の若者たちは健康的な対処法を見つけることができる。若者とその両親と一緒に、過度のストレスの兆候を見つけ、適切なツールを使用してそれを管理することを学ぶことができる。

##### 【問題 2-2】

- ③ school
- ④ Source

##### 【問題 2-3】

15歳から21歳の若者（つまりジェネレーションZ、Z世代）は、銃の暴力や学校での銃撃事件、自殺率の上昇、気候変動、移民の扱い、セクシャル・ハラスメントなど、ニュースになる社会問題に、重大なストレスを感じていると報告している。

## ■ 2期

### 【小論文】

#### 出題意図

近年の臨床心理学において重要な概念・トピックに関して、十分な知識及び論述する能力があるかを問う問題である。  
採点基準

- ① 「受容」「共感」の概念を説明できる。
- ② それらをされた人がどのような体験をするのか、説明できる。
- ③ その体験がその人にどのような変化をもたらすのか、説明できる。
- ④ ①～③を説明するにあたり、自分自身の体験を適切に用いることができる。

### 【専門科目】

#### 出題意図

1. 広範な領域から、重要かつ基本的な用語の知識があるかを問う問題である。
2. パーソナリティ、心理尺度、発達、臨床心理学など広い領域から、重要かつ基本的な用語の知識および論述する能力があるかを問う問題である。
3. 研究に関する重要で基本的な知識・論述する能力があるかを問う問題である。

#### 問題1

- ① ディセプション
- ② プライミング
- ③ 強迫性パーソナリティ障害
- ④ 視床
- ⑤ 感覚運動期
- ⑥ 司法面接
- ⑦ 行動活性化
- ⑧ バーンアウト
- ⑨ ローカスオブコントロール (Locus of control) 統制の所在
- ⑩ せん妄

#### 問題2の解答例

##### (1) 緩和ケア

生命を脅かす疾患に起因した諸問題に直面している患者とその家族に対し、痛み、その他の身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期に発見し、確実な診断と対処方法によって、苦しみを予防または和らげることで、QOL（生活の質）を改善するアプローチ。

##### (2) PF スタディ

ローゼンツァイクが開発した、欲求不満に対する反応を測定するための投影法検査。24の漫画風に描かれた線画は、いずれも日常経験するような軽い欲求不満場面であり、2人以上の人物画が描かれている。回答者は片方の人物のセリフを想像し記入する。結果の解釈はアグレッションの方向と型の組合せで示される。

##### (3) ハロー効果

他者を評価する際に、その他者の全体的な印象や評価すべき観点以外の要素の影響を受けて、評価が歪んでしまう現象。光背効果、後光効果とも呼ばれる。

##### (4) 3段階の心理教育的援助サービス

学校教育において一人ひとりの児童生徒が学習面、心理・社会面、進路面、健康面における課題への取り組みの過程で出会う問題状況の解決を援助し、成長することを促進する心理教育的援助サービスのモデル。すべての子どもに対する一次的援助サービス、配慮を要する問題を持ち始めた子どもに対する二次的援助サービス、重大な援助ニーズのある子どもへの三次的援助サービスの3段階で構成される。

##### (5) 選好注視法

乳児の注視行動を利用した実験方法。二つの刺激を対提示し、乳児がどちらか一方を選択的に注視するかを調べる。例えば、乳児に顔のような配置の図形と、ランダムな配置の図形を提示すると、後者よりも前者を長い時間注視する。これは、乳児は両者を区別し後者よりも前者を好むことを示している。

### 問題3

(問3-1)

利点

- ・調査協力者が時間や場所、端末を自由に選んで回答可能（回答する環境を選べる）。
- ・アンケート調査票の作成が簡便。
- ・収集データが電子化されているため分析が容易またはミスを減らせる。など

欠点

- ・回答環境が調査協力者任せとなるため、回答の質や回収率を下げる可能性がある。
- ・URL 及び QR コードへアクセスする端末を所持していない場合は回答ができない。など

(問3-2)

[a] 環境保全行動

[b] 共感性, 自己愛傾向, 愛他傾向, 責任感

[c] 決定係数

[d] 標準偏回帰係数

(問3-3)

[e] 多重共線性

[説明] 重回帰モデルにおいて、説明変数間に非常に強い相関があることをいう

(問3-4)

[結果] 共感性及び責任感が環境保全行動へ有意な正の影響をあたえており（共感性  $\beta = .27$ , 責任感  $\beta = .44$ , いずれも  $p < .01$ ）, 自己愛傾向が環境保全行動へ有意な負の影響をあたえていた（ $\beta = -.25$ ,  $p < .01$ ）

[考察] 責任感が強く、他者の気持ちや考えに気づき、思いやりを持って関わる傾向にある者は、人だけでなく周囲の自然環境へも思いやりをもち、責任感をもって守る意識や行動を起こすと考えられる。それに対して、自分自身への肯定的感覚をもち、日々その欲求を満たすことに重点を置く者は、自分にばかり注意が向いているために周囲の環境に対して思いやりをもつ意識や行動を起こすことができないと考えられる。